J-36

隅田川流域における堤防整備の変遷に伴う人の活動の変化に関する研究

A study on the relation between improvement of levees transition and person's activities change of the Sumida river.

○新井侑子[1], 畔柳昭雄[2], 菅原遼[3]
*Yuko Arai[1], Akio Kuroyanagi[2], Ryo Sugahara[3]

Abstract: The purpose of this study is to clarify the relationship of the seawalls development and people's activities. Therefore, in this study, I have investigated those changes from the history of the Sumida River. That there is a need to consider the seawall in cooperation with the hinterland are now clear.

1. はじめに

近年,わが国の河川では 1997 年の河川法改正や 2004 年の河川敷地占用許可準則の特例措置の通達に伴い,多様な主体間の連携による河川の賑わいの創出に向けた取り組みが全国で実施されている.その例として,広島県の「水辺のオープンカフェ」や大阪府の「北浜テラス」では,背後地との関係性や河川空間との連続性を考慮した事業展開がなされている.また隅田川では 1949 年以降の堤防整備により人々の生活から水辺が隔絶されてきたが,2011 年には「隅田川ルネサンス」が策定され,河川空間の賑わい創出に向けた各種取り組みが展開されている.

そこで本稿では,隅田川における治水整備と人々の活動の発展及び衰退の関連性を整理し,今後の河川空間整備のあり方を考究することを目的とする.

2. 調査概要

調査概要を Table1 に示す.本稿では隅田川の流域圏の台東区・墨田区・中央区・江東区を対象に,堤防整備が開始された 1949 年以降から現在までの治水整備の変遷及び流域の人々の活動について文献調査を行った.

3. 結果及び考察

調査結果を Table2 に示す.1953 年以前の隅田川では逆 V 字型の漏斗状に配置された堤防により,高潮の被害を防いでいた.しかし,相次ぐ大型台風による被害が生じたことから,第一次高潮対策事業を始め,浸透水や不等沈下に対応できる直立型堤防を採用した第二次高潮対策事業,東京高潮対策事業といった各種治水整備が実施された. 1950 年代には高度経済成長に伴う陸運の発展や水質汚濁などの問題から,かつて隅田川で行われていた渡しや観光,釣りなどの遊興の活動は衰退し,加えて隔てるように設置された直立堤防により隅田川と人々の生活は分断された.

Table1. Outline of the study

項目	調査概要
調査対象地	隅田川流域（台東区・墨田区・中央区・江東区）
調査方法	文献調査（区史・関連図書・インターネット）
文献調査項目	隅田川の堤防整備変遷、隅田川の歴史
調査日	2016 年 9 月 20 日～9 月 25 日

しかし,高度経済成長期以降,隅田川の価値が見直され,水質環境の改善や水辺に触れ憩える場が求められ,隅田川の河川敷は直立堤防から緩傾斜型堤防, スーパー堤防, 親水テラス等の環境に配慮し,人々が水辺に近づける空間に再整備された.その結果,河川敷のおける人々の活動が活発化され,近年では市民・企業間での連携による多様な河川利用が展開されている.その利用目的も市民のための地域祭りや防災船の設置,環境教育を目的とした清掃や自然教室,伝統の保存を目的とした舟を使った観光など,隅田川を市民だけではなく観光客までもが隅田川を楽しむことができる活動が広く行われている.

高度経済成長期以前の隅田川では,渡し舟や料亭など背後地に関連した空間が設けられ,隅田川流域特有の空間が形成されていた.一方,現在の隅田川沿いには,ほぼ全域に連続した親水テラスが整備されたものの,地域性のある空間は見られない.しかし親水テラスの整備により開放的な河川敷が形成されることで,そこを活用した多種多様な活動が展開され, 現在では市民・企業の連携によるまちづくり活動も行われている.

4. おわりに

本研究では,隅田川における人々の活動に堤防整備が影響を与えてきたことが明らかとなった. 現在の隅田川の河川敷利用には背後地との関連性が乏しいため,今後河川の多様な利用・活用を展開していくためには,背後地を考慮した空間整備や諸活動を支える地域内の体制構築のあり方を検討していく必要がある.

1：日大理工・学部・海建 Under graduate School ,Nihon-U.
2：日大理工・教員・海建 Prof, CST ,Nihon-U.， Dr. Eng
3：日大理工・教員・海建 Associate Prof, CST ,Nihon-U.， Dr. Eng.

Table2. Chronology

	整備事業	環境	活動	区分	断面構成
1949	**第一次高潮対策事業、開始。**	キティ台風が上陸し、高潮の被害を被る。		線的防護期	■ 第一次高潮対策事業　A.P. + 4.00m
1950	都内最古の鉄橋、蔵橋が撤去。		隅田川川開き復活。隅田川の一級基準が水上バスと改名して復活。 蔵前に海洋博物館が開場。		
1951					
1952			上野公園～亀戸～今井において、都内最初のトロリーバス開通。		
1953	都内最古の鉄橋、蔵橋が撤去。				
1954	鬼怒川の埋め立て工事開始。				
1955	中川護岸工事竣工。	工場排水により、水質汚染悪化。	高度経済成長期突入期に入り、工場が増加。		
1956		住吉神社宮神輿の転覆錦中止。 「住吉の川渡り神事」が汚濁により中止。	隅田川で灯篭流し開催。		
1957	**第二次高潮対策事業、開始。** 蔵橋、架替え工事竣工。				
1958	晴海地区と深川地区間の吾妻橋が完成。	台風 22 号が上陸し、墨田区の床下浸水。 隅田川沿岸一帯に、河川汚染による金属 黒変現象が現れる。	大東京祭にて、花魁行進が開催。		
1959	晴月橋架設工事竣工。				
1960	隅田川と竪川の合流点に竪川水門竣工。		都営地下鉄一号線、浅草橋～押上間が開通する。トンネルが初めて隅田川の川底を通る。		
1961	二瀬ダムが完成。				
1962	**東京都高潮対策事業、開始。**		両国の花火大会が、交通事情の悪化に伴い中止。 住吉神社宮神輿転覆錦取り止め。 東京都の内湾漁業権補償が決定し、漁業組合が解散。		
1963	中川放水路が完成。				
1964	荒川放水路流水路が開通。 玉淀ダムが完成。		国が新しい河川法が制定される。 東海道新幹線開通。「渡し」の廃止。		■ 東京高潮対策事業　A.P. + 6.40m
1965	新神宮橋が完成。武蔵水路が通水。 「ノ井「おはぐろどぶ」暗渠化。	集中豪雨があり、下町が浸水。 降雨雨量 93 ミリを記録。 台風四号により、下町が浸水。	新河川法が交付される。隅田橋が完成。船の渡しが廃止。 隅田川沿岸住民の「隅田川浄化促進大会」開催。		
1966			「江戸前のハゼを守る会」を日本釣魚会連盟など 11 団体結成。 夢の島へのゴミ投棄終了。		
1967			汐入の渡しが廃止。 トロリーバス、上野公園～今井、浅草～亀戸の２線廃止。		
1968	尾久橋、柳橋大橋が完成。				
1969	営団快速線の隅田川トンネルが完成。				
1970					
1971	高速道路建設工事により、橋梁木の解 え直しを実施。		国会にて、公害対策基本法の改正が決定。		
1972					
1973	荒川上流の第二改修工事が開始され、 新岩淵水門の建設の計画が決定。				
1974					
1975	隅田川防潮堤完成。	墨田区を大気汚染地域に指定。	隅田公園の管理が東京都から区に移管。		■ 緩傾斜型堤防
1976					
1977	新大橋が斜張橋に架け変えられる。				
1978			早慶レガッタの復活。両国の花火が隅田川花火大会として復活。 隅田川公園愛護会が結成。		
1979		隅田川流域の下水道普及率が 50%を突破し 改善の傾向がみられる。	「隅田川マラソン撃」開催。下町河川の水質の浄化と護岸の緑 化を目標とした「神田川船の会」が開催。		
1980	白鬚西地区において、 **緩傾斜型堤防整備事業、開始。**		隅田川・隅田公園愛護会で隅田公園愛護協定を結ぶ。	面的防護期	
1981	荒川の調整池計画が竣工。		ウォーターフェア隅田川レガッタが開催。		
1982			墨田区文化財保護条例制定。		
1983			江東地区防災拠点である、白鬚地区の住宅棟が完成。		
1984			隅田川沿岸九区の区会長により、「隅田川宣言」が発表される。		■ スーパー堤防
1985	**スーパー堤防整備工事開始。** 歩行者専用の橋梁が架けられ、護岸が		隅田川創造の運動目標として「隅田川宣言」が発表。 隅田川流域の市民クループにより、隅田川市民サミットが開催。		
1986	緩傾斜型堤防に改造。		水辺空間の再生・水辺整備を目的とした、リバーウォークが開催。 山谷地が埋め立てられ、緑道公園となる。		
1987	隅田川テラス整備事業が着手。 かつしかハーブ橋・水神大橋が完成。		隅田川灯篭流しが 16 年ぶりに復活し、橋梁にて開催。		
1988	二階橋と橋梁間の親水テラスが完成。	形成鉄橋下でアユが釣糸にかかる。	隅田川が、建設省の「マイタウン・マイリバー」に指定される。 隅田川未来委員会が隅田川長期基本構想をまとめる。		
1989	新川・福崎地区にてスーパー堤防が完成。		大倉喜郎作詞・廻辺晋一郎作曲の合唱組曲「すみだがわ」が完成。		
1990	リバーピア言問橋が完成。		隅田川の水を利用した地域冷暖房・給湯システムが箱崎地区で開始。 住吉神社宮神輿の転覆錦再開。		
1991	荒川放流が全面改装される。 利根川に奈良俣ダムが完成。		隅田川・荒川を巡る「水辺ライン」の観航。		
1992	江東ゼロメートル地帯の内部河川の水位を １メートル下げる。 荒川アーチ橋が完成。		平成の隅田川八景が選定される。 屋形船による廻遊びが盛んになる。		
1993	中央大橋が完成。		河川浄化対策啓発事業として「隅田川ハゼ釣りと水辺観察」が開始。 江戸和船潜き技術の保存を目的とした「和船乗船体験」が開催。		
1994					
1995					
1996	隅田川テラス整備工事開始。		**河川法の改正。**	防護・環境の調和期	■ 親水テラス整備後
1997		河川法改正、隅田川の水質環境基準が Ｂ類型向上し、C 類型と決定。			
1998					
1999			永代橋・清洲橋など隅田川の著名な橋梁８橋と田川閘水門が、東 京都歴史的建造物に指定。		
2000					
2001					
2002			**国土交通省により「河川敷地占用許可準則の特例措置」が策定。**		
2003			「墨堤の桜の保全・創出事業」開始。		
2004			テラスを利用した「浅草夏の夜まつり」が開催。 墨田区・江東区により「本所深川海彩　夏の廻遊道」が開催。		
2005			新タワー建設地が「押上・業平橋地区」に決定。 隅田川市民交流実行委員会が「地球環境大賞」を受賞。		
2006					
2007					
2008	「東京スカイツリー（用）」が建設着工。		隅田公園の桜の植樹式。 平成 37 年を目標とした「隅田川水辺空間等再整備構想」が策定。		
2009			墨田区が景観法に基づく景観行政団体となる。		
2010					
2011			「隅田川ルネサンス」が結成。		
2012			都立汐入公園や隅田川にて、東京藝術大学と連携した 「隅田川夕日見　熱大みこし汐入パレード」が開催。		
2013			隅田公園内に、「隅田公園オープンカフェ」が設置。 隅田川堤防を活用した、「かわてらす」社会実験が行われる。		
2014			桜橋防災船着場を中洲橋に一時撤去することが決定。 隅田川ルネサンスのラッセンゲ水上バスが運航を開始。		
2015			江東区により、「隅田公園再生工事」が公示される。 「船カフェ」社会実験が初めて行われる。 橋脚・浮桟などに対する安全性の向上のため、		
2016			「隅田川流域河川整備計画」が変更された。		